

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.111

2009/02/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 北部湿原の完全復元見えてきました



新緑が待たれる復元された北部湿原 (09/02/09)

昨年の 12 月 13 日に通水をした北部湿原は順調な水環境になりつつあります。現在残っている未復元場所の刈り払い作業と刈り払いを終えたものの除去作業が進められています。現在の作業ペースですと今秋には完全復元ができるはずです。1960 年代に一部人為的攪乱がなされてからの林地化のスピードは予想以上のものであることが空中写真等から確認出来ますが、このことから逆に自然に対する「人為」のあり方を学ぶことも出来ました。

復元地には既にトンボ等の飛翔も確認されていますから、今年はかなりの賑わいも期待できそうです。



林地化が進行していた北部湿原 (2000/05/28)



表面は粗野だが池塘には水が (09/02/07)

**ヒダサンショウウオ見つかる** かねてよりサンショウウオが生息しているといいのではないかとわれ、昨秋訪問者がサンショウウオのようなものを見たとの報告がありました。しかし確認がされていませんでした。2 月 2 日「四季の森」の沢を流れ下る個体が確認されました。体長 13 cm のヒダサンショウウオです。本州中部山地に広く分布する溪流性のサンショウウオです。山門水源の森には止水環境もありますので、アベサンショウウオの生息の可能性も高い(京都・福井には生息が確認されている)ので今後注意して観察する必要があるとの助言を京大の松井先生から頂きました。



ヒダサンショウウオ (09/02/02)



## 凍結湿原の様相

冬期の湿原で見られる現象は、気温によって著しく異なります。湿原の凍結はいうまでもないことですが、氷に閉じこめられたオオミズゴケやハリミズゴケの「氷柱華?」、霧氷、風紋等々。中でも泡の凍結したものは幻想的です(右の画像)。手で持ち上げてもくずれない泡の結晶です。その表面には羽毛のような氷の針状結晶が発達しています。この現象は、直射日光が当たると瞬時に消滅してしまいます。こういう現象を見ると自然界の変化の多様性を改めて感じます。四季の変化だけでなく、時間変化も見ることがあることを思い知らされます。冷え込んだ朝是非一度お出かけ下さい。



水泡の結晶 (09/02/09)

湿原凍結も場所によってその様相が千差万別です。水深の違い・日照時間の違い・水面下の違い・風の影響の受け方の違い等々で凍結の様子が異なり一筋縄では解釈できません。逆に結果としての凍結の状態から凍結時の条件を想像するのも楽しいものです。例年の状況から考えると4月中旬までは湿原の凍結は繰り返されますので日の出前の時間帯にお出かけ下さい。



凍結状態も場所によって異なる (09/02/02)



いち早く積雪が融けた部分の凍結 (09/02/02)



積雪が融けた直後の凍結 (09/02/02)



積雪が残る部分の凍結 (09/02/02)



シカによって踏み破られた氷 (09/02/02)

こうした凍結した湿原にも生きものの息づかいも観察できます。凍結した湿原の氷をシカが踏み破った跡、足跡そのものが凍った跡、イシガメの泳いだ跡、氷下に溜まる光合成で形成された酸素の夥しい気泡等々注意をすると結構いろいろな情報が得られます。勿論水面がどのように凍結してゆくのかの結晶状態も見られることがあります。

夜明けが早くなりましたが、早朝に・・・